

山盲だより「むつほし」第21号

発行 令和4年 3月 4日
山形県立山形盲学校

今年度のPTA活動を振り返って

PTA 会長

今年度はコロナ禍の中、活動が思うように出来ず色々大変なことも多くありましたが、そんな中でも皆様のご協力のおかげで最大限に素敵な1年を過ごすことができました。

特に、点字ブロック理解推進事業では、今までなかったマスキングテープや点字シールを配付することで、視覚障がい者や点字ブロックを身近に感じる機会がない方々へもより関心を持っていただけたのではないかと思います。

今後も、まだまだ先行きが分からず、不安なことも多い世の中ではありますが、私達が今できることを少しずつ行い、少しでも視覚障がい者への関心、理解が深まるように頑張っていければと思います。

最後に、このPTA活動にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

来年こそ

校長

「ピンチをチャンスに」「できないではなくどうしたらできるか考える」こんなフレーズが、ここ2年の間に多く聞かれるようになりました。新しい生活様式の中で多くの経験や体験学習を進めてきました。オンラインでの交流活動や学年ごとの山盲祭発表などに前向きに取り組んできた児童生徒の皆さんはとてもキラキラしていました。くよくよしても始まらない、大丈夫、大丈夫。PTA活動においても来年こそ、「ピンチをチャンスに」した取り組みができることを願っております。

令和3年度科学ヘジャンプ in 東北オンライン2021

講師 宮城教育大学 永井 伸幸 氏

期日：令和3年9月23日（木）

場所：山形県立山形盲学校

「科学の楽しさ」を体験するために、専門の先生とリモートでやりとりしながらワークショップに参加しました。

<グループ1>

3Dプリントされた各種動物の特徴を、触察を通して学ぶ。

<グループ2>

プログラミングを利用して、キャタピラ自動車を動かす。

校内PTA研修会（紙面開催）

「コロナ禍の本校児童生徒の健康」

養護教諭

コロナ禍になり2年が過ぎようとしています。コロナが無くなったら何をしたいと聞くと、「みんなと体育館でマスクをしないで思いっきり鬼ごっこをしたい。」「給食の時、おしゃべりしながらみんなで食べたい。」「修学旅行に行きたい。」と言う児童生徒達があります。コロナによる生活の変化は、子供の成長発達にも大きな影響を与えました。

児童生徒達は、自分や家族が感染したらどうしようという不安が大きい中でも、新しい生活様式での生活に柔軟に適応しています。しかし、コロナ禍を生き抜くには、見えにくい児童生徒ならではのストレスも抱えていると思います。

★保護者の皆様へ★

触ることやコミュニケーションをとることで見えにくさをカバーしている児童生徒達は、時に、コロナ禍において、ソーシャルスタンスが分からない等、生きづらさに直面し、ストレスを抱えることがあるのではないかと察しています。

保護者の皆様には、これまで同様「辛い・嬉しい・楽しい・イライラする」など、児童生徒のありのままの気持ちを受け止めていただきながら、表情や声のトーンの変化に気付いた時は、学級担任等にお知らせください。学校では、児童生徒に寄り添って一緒に解決法を探りたいと考えます。

今後もしばらく続くと思われるコロナ禍を生き抜くため、本校児童生徒には自分にあったストレス対処法を見つけ、他の人とのつながりを維持しながら、たくましく生きて欲しいと願います。

保護者から

- ・コロナ禍の健康相談で本人たちの心配ごとや個々人の対応を知ることができました。
- ・子供たちの不安に寄り添って意見を聞いてくださっていることがわかり、ありがたいと思いました。コロナの対策も十分にとられていると感じます。
- ・相談の内容を見て、子供たちもストレスを抱えていたことがわかりました。家庭ではもちろん、学校とも連絡を取り合って子供たちが学校生活を送れるようにしたいです。

令和3年度 全国盲学校PTA連合会

第60回総会並びに研修会

期日：令和3年6月15日（火）

今年度は、Zoomによるオンライン会議が行われ、PTA会長・校長が参加しました。総会では、令和2年度の事業・会計報告、令和3年度の事業・会計案の協議の後に、演題「盲重複障害を持つ人の支援」の講演がありました。総会の中であった『日本視覚障がい者団体連合あん摩師等法十九条連合会』からの署名の依頼については、268筆の署名が集まりました。御協力、誠にありがとうございました。

第45回山形県特別支援学校PTA研修会

期日：令和3年10月20日（火）

PTA副会長

「地域と共に幸せに生きるために」のテーマのもと、全体会の講演は、3・11の災害時についての話でした。経験された話の中で印象に残ったのは、障がい児家族が避難所を変更したり車の中で過ごしたりしていることが多かったということでした。周りの人の理解を得るためにも、地域の人との関わりを深めていきたいと思いました。

友遊自然塾

PTA行事の友遊自然塾は今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会員が一堂に会しての開催は困難な状況でした。そこで、皆様から『自然の中での親子の触れ合い』をテーマに情報やアイデアをお寄せいただき、紙面で紹介することで交流を図ることとしました。

内容として、「我が家の芋煮レシピ」、「家庭で自然を楽しむアイデア」、「自然に親しむとおきスポット」など、自然や遊びに関する内容を、自由にお寄せいただきました。お寄せいただいた情報は、「友遊自然塾通信」として、第3号まで発行しました。

保護者のみなさんからの感想

- ・みなさんのおすすめの場所や情報が聞けて良かったです。コロナ感染状況にかかわらず、今後続けてもいいと思いました。
- ・子どもと一緒に自然を感じることでできる様々な場所を知ることができて良かったです。今後行ってみたいです。
- ・知っている所でも行く人によっていろんな遊び方があるんだな、やってみようと思いました。

点字ブロック理解推進事業

PTA活動として取り組んできました「点字ブロック理解推進事業」も、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年に引き続き街頭でのPR活動は中止となりました。街頭活動に代わるものとして、本校のホームページに、「知ってください！点字ブロックのこと・視覚障がいのこと」という記事を掲載しました。

また、神奈川県で活動している、視覚障がいのある子どもと保護者の会『つばさの会』さんで視覚障がいの啓発活動用に販売している「つばさの会オリジナルマステ&シールセット」をPTA会費で購入し、会員に配付しました。私たちがマスキングテープやシールを使用し、いろいろな方の目に留まることで、視覚障がい者が使用している点字や点字ブロックを知ってもらおうきっかけになればと思います。

保護者のみなさんからの感想

- ・シールは、“ありがとう”のメッセージを受け取った方が、点字に興味をもってくださいるのではと思います。

- ・マスキングテープはかわいいデザインでした。いろいろなことに使い、知ってもらえたらよいと思います。
- ・点字メッセージを目にする機会があることで興味関心をもつきっかけになってくれるかもしれないので、使用してみたいです。

地域とつながる体験・発信事業 盲学校の魅力を伝えるパネル展示

期日：令和3年11月30日（火）

「地域とつながる体験・発信事業」では、学部ごとに昨年度の活動を継続して取り組みました。小学部は盲学校の先輩を講師にサウンドテーブルテニス体験を、高等部普通科はYGB(山形ゴールボール)の方や上山明新館高校の生徒さんとゴールボール体験を行いました。高等部理療科は「理療科紹介ビデオ」を作成し、外部への発信を行いました。

今年度の新たな取り組みとして、この活動内容を中心にしたパネル展示をイオンモール山形南、1階イベントスペースで行いました。買い物に来ていたお客さんが立ち寄って、展示したパネルや視覚障がい者用の機器やグッズを見ていかれました。より多くの方に盲学校や視覚障がい教育について知っていただく、よい機会となりました。

山盲祭より

期日：令和3年10月23日（土）

場所：山形県立山形盲学校

<発表の様子>

- ・小学部ステージ発表
 - 1年生 「ぼくの好きなこと」
 - 2年生 音読『お手紙』
 - 3年生 聞いて楽しい「私の市の自慢」
 - 4年生 演奏『茶色の小びん』『オーラリー』
 - 6年生 「修学旅行ブギウギ」
- ・高等部普通科ステージ発表 バンド演奏「帰ってきた！ TM むつぼし」
- ・高等部保健理療科・理療科（専攻科）ステージ発表「理療科紹介 ザ・ムービー Part2」

今年度の活動より

「小学部」

- 運動会** グラウンドで音響走を、体育館で赤白対抗種目や親子競技を実施しました。
- 遠足** 向陽園のマインドパークで乗馬や餌やり体験をしました。馬とたくさん触れ合って楽しみました。

「高等部普通科」

上山明新館高校との交流

今年度も上山明新館高校との交流を3回行いました。1回目は、明新館高生が育てた苗を、相談しながらプランターに植えました。生徒昇降口に設置したプランターには、色とりどりに花が咲き、私たちを楽しませてくれました。

2回目は、ゴールボールをしました。明新館高生にボールの投げ方や受け方を説明し、一緒に練習しました。その後、混合チームを作り、作戦を立てながらゲームを行い、体育館には元気な声が響きました。

3回目は、明新館高校に行き、ドームアレンジを作ったり、明新館高生が点字で書いた質問に答えながら、趣味や学校生活の話をしたりして楽しみました。

こころの健康づくり出前講座

外部講師を招いて、ストレスマネジメントの学習をしました。ストレスを軽減するための呼吸法を教えてくださいました。その呼吸をすると心を落ち着かせることができました。

「高等部保健理療科・理療科（専攻科）」

スペシャリスト講演会

12月3日（金）に、スペシャリスト講演会が本校で開催されました。今年度は栃木県でマッサージサロンを開業している坂本一先生に講師としてお話をさせていただきました。坂本先生は1970年に栃木県立盲学校の幼稚部に入学し、1988年に理療科を卒業しました。2005年には「有限会社陽光」を設立し、介護部門として同行援護、居宅介護、就労支援A型施設を立ち上げており、2021年11月にはマッサージ店の4店舗目を出店しています。坂本先生は「周りのおかげで自分は生かされていると感じる心を持つことが大事だ」と話してくださり、我々も心遣いや経営に関する貴重なお話を聞くことができました。

「寄宿舍」

夏の行事「サウンドテーブルテニス交流会」

7月15日サウンドテーブルテニス交流会を行いました。時間で区切るオリジナル寄宿舍ルールで実施しました。仲間の打つ球の音に耳を澄ませ、得点時には拍手で喜び合う姿が見られました。また、高等部同士の対戦では速い球を打ち合う見応えのある展開になりました。舎生同士の交流を深める良い機会となりました。

やまもーEats

寄宿舍で9月と12月にデリバリー形式の「やまもーEats」を行いました。複数の飲み物の中から好みのものを選び、舎生が希望した日時に指導員が居室へ配達しました。舎生からは「おいしかった。」と好評でした。新型コロナウイルス感染症対策により居室で過ごすことが多い中、ほっとした時間を過ごしていました。

冬の行事「ビンゴDeビンゴ！」

12月2日（木）にビンゴ大会を行いました。カードの数字が読み上げられると、数字のところを折り、リーチとビンゴに期待していました。ビンゴになった人からお目当ての景品を選び、喜んでいた姿が印象的でした。その後、ビンゴゲームで最後になった舎生から再度景品を選べるサプライズのゲームもあり、どちらのゲームも楽しんでいました。

卒業生からのメッセージ

「中学部への第一歩」

小学部 6年児童

ぼくの思い出は、小学部のみんなと休み時間に楽しく遊んだり、体育の授業をいっしょにしたこと。中学部に入学したら、分からないことは今よりもすぐ聞けるようにしていきたいです。

「挑戦だった3年間」

高等部普通科 3年生徒

この度、多くのご支援をいただき、卒業を迎えることができました。この3年間は、将来に向けて考え、物事に挑戦することができた3年間だったと感じます。今後も、将来目指すあはきの道に向かい、新たなことへ積極的に挑戦していきたいと思えます。

「Re:STAT」

高等部理療科専攻科 3年生徒

本校理療科専攻科に入学してから早や3年の月日が経つ。この3年間の課程で習得した様々な知識・技術等を生かして社会復帰を果たし、社会貢献ができるよう精一杯頑張っていきたい。人生が終わりのない旅であるならば、その舵を取る自分は冒険者だ。次の扉を開けるため過去から来た冒険者は未来のため Re:START をきる。

On your mark, Get set, Go!

目や見え方で気になることはありませんか

視覚支援センターでは、乳幼児から成人の方までの相談をお受けしています。ご本人の他、ご家族や担任の先生等、支援に関わる方々全てが対象です。

本校での相談の他に、在籍する幼稚園・保育園・学校等に訪問して、見え方に配慮した環境や学習上の工夫等のアドバイスも行っています。また、庄内・最上・北村山・西村山・東南村山・東南置賜・西置賜の県内7地区に出向いての「アイ・サポート相談会」も年2回開催しています。お気軽にご相談ください。

相談のお申込み・お問合わせ

視覚支援センター（山形県立山形盲学校内）

TEL 023-672-4116

メール：yyamamo@pref-yamagata.ed.jp



編集後記

たくさんの方々のご協力のもと、「むつぼし第21号」を無事発行することができました。皆様には、心より感謝申し上げます。

(PTA 事務局)